

日本における食虫植物の都道府県別分布：文献を主として

著者	小宮 定志
雑誌名	日本歯科大学紀要. 一般教育系
巻	31
ページ	135-165
発行年	2002-03-20
URL	http://doi.org/10.14983/00000559



日本における食虫植物の都道府県別分布 —文献を主として

Carnivorous Plants mentioned in each Prefecture of Japan

歯学部 小宮定志

Sadashi KOMIYA

Department of Biology, The Nippon Dental University,
Fujimi, Chiyoda-ku, Tokyo 102-8159, JAPAN

(2001年11月21日 受理)

1. まえがき

小宮, 小宮他 (1975, 1978, 1979, 1980, 1988, 1989, 1994 a, 1994 b, 1995, 1997, 1999, 1999, 2000 a, 2000 b, 2000 c, 2001) は, 実在標本の調査に基づき日本産食虫植物 (モウセンゴケ科, タヌキモ科) の分布を明らかにしてきたが, 文献に示された分布記録は一切無視してきた。今回は, 「地方植物誌」, 「植物目録」, 「報告書」等を通観して各都道府県における食虫植物の分布を文献上の記録から纏めてみた。出来る限り最近に出版されたものを引用し, やむを得ず古い文献しか見当たらない場合はなるべく最新情報を書き加えるべく努力した。勿論, 証拠標本が存在しなかったり誤同定も多いと思うが, 現状を把握出来ているものについては追加または注記した。

各文献ごとに採用された植物名 (和名・ラテン名) や種の分類区分がまちまちであるため, 標準的な種の分類に役立つ検索表 (種以下のランクは省略) と種名 (学名) 一覧を示しておく。

2. 日本産食虫植物の検索表

モウセンゴケ科

- A 根がなく水面下に浮遊する多年草。茎は多節で分枝し。各節に6～8葉を輪生する。捕虫器は2枚貝状で開閉する。単生花序をもつ。 ムジナモ属……1. ムジナモ
- A 根をもち湿原や湿地に生える多年草または一年草。茎は立ち上がるか殆ど伸びない。葉は互生し、表面に腺毛を密生し、粘液を分泌して昆虫などを捕獲する。花はふつう総状花序に多数咲く。 モウセンゴケ属
- B 地下に塊茎をもち、茎は立ち上がり葉を疎らに互生する。葉は葉柄のついた楕状で葉身は三日月形、托葉はない。種子は微小で卵形または狭い線形。 2. イシモチソウ
- B 地下に塊茎をもたず、托葉は目立つが退化するものもある。
- C 一年草。茎は長く伸び上部で分枝し、葉を疎らに互生する。葉は線状で長く、托葉は退化し、葉柄は区別しにくい。総状花序に多数の花を咲かせる。 3. ナガバノイシモチソウ
- C 多年草。茎はごく短くて葉を密に互生する。葉は地生してロゼットを形成する。托葉は乾膜質で目立ち、葉柄はふつう区別できる。花は片側に並んだ総状花序に多数咲く。
- D 茎は殆ど伸びず、葉をロゼット状に地生する。托葉は長く、離生して多分裂する。種子は微小で倒卵状楕円形、表面に亀甲文様がある。冬芽をつくらず暖地で越冬する。
- E 葉身はへら状で葉柄が区別しにくく、基部近くまで腺毛が生える。托葉はふつう3片状で各片は狭い。染色体数は $2n=20$ または40。 4. コモウセンゴケ
- E 葉身はややスプーン形で葉柄が区別でき、腺毛が少ない。托葉はふつう4片状(中片が2裂)で各片は幅広く、更に多分裂する。4と6の交雑に由来する複倍数体で、染色体数は $2n=60$ 。日本固有種。 5. トウカイコモウセンゴケ
- D 茎は殆ど立たず、葉を斜上またはロゼット状に地生する。種子は紡錘形で、種皮が伸びて袋状に膨らむ。冬芽をつくり越冬する。
- F 葉身はほぼ円形で4～12 mm長。葉柄は有毛で6～70 mm長。染色体数は $2n=20$ 。 6. モウセンゴケ
- F 葉身は狭いへら形または長楕円形で15～40 mm長、2～4 mm幅。葉柄は無毛で30～100 mm長。染色体数は $2n=40$ 。 7. ナガバノモウセンゴケ
- F 葉身はさじ形で15～20 mm長、4～6 mm幅。葉柄は50～65 mm長。6と7の自然交配種で、染色体数は $2n=30$ 。 8. サジバモウセンゴケ

タヌキモ科

- A 単生花序で、花柄に苞がない。萼片は5。捕虫器は葉表面上の微小腺毛。山地から高山に自生。 ムシトリスミレ属
- B 花柄は単一で1花をつけ、上部に微腺毛を散生する。花冠は5裂（上唇2裂，下唇3裂）し、紫色。葉身は長楕円形でやや尖頭。 1. ムシトリスミレ
- B 花柄はしばしば基部近くで叉状に2～3分岐し、腺毛を密生、それぞれ同時に花をつける。花冠は5裂し、下唇の中片が特に幅広くて全縁、その中央部と距は黄色、花冠全体は淡紅紫色で先端部分が白色。葉身は短い楕円形または軍配形でやや凹頭。日光周辺の亜高山に自生する固有種。 2. コウシンソウ
- A ふつうは総状花序で、花茎に鱗片をつけるものとつけないものがあるが、小花柄の付け根に苞をつける。萼片は2。捕虫器は袋状。水中生または沼湿地に陸生。 タヌキモ属
- C 小花柄の付け根に苞と小苞2をもつ。葉は地上に伸びへら形または線形で全縁。捕虫囊の入り口は細長い管状で深い。陸生。
- D 鱗片・苞・小苞は基部が離生する。萼に乳頭状突起がある。捕虫囊に2型が見られ、長腺毛で縁取りされた単一の吻 (rostrum) をもつ。吸収毛は4叉状。 3. ホザキノミミカキグサ
- D 鱗片・苞・小苞は基部で着く。捕虫囊の吻は単純または2分岐する。
- E 萼片は草質で萼より短い。捕虫囊は単純な吻と腹面にエブロン状の腺集団をもつ。吸収毛は4叉状。 4. ヒメミミカキグサ
- E 萼片は膜質で花後生長を続けて萼を包み込む。捕虫囊は2分岐した吻をもち、吸収毛は2叉状。
- F 花は青～紫色または白色。捕虫囊の吻に短い有柄腺がある。 5. ムラサキミミカキグサ
- F 花は黄色。捕虫囊の吻は細長くて腺はない。 6. ミミカキグサ
- C 水中生。水中茎は緑色で、無色の地中茎を伸ばすものもある。葉は1面～多面的に多分裂する。捕虫囊は浅い入口をもち、ドアが直接外界に接する。吻とは別の1対の分岐した角状突起 (antenna) をもつ。吸収毛は4叉状。小花柄の付け根には苞をつけるが、小苞はない。鱗片をつけるものもあるが、つけないものもある。いずれも基部で着く。
- G 沈水または浮遊。沈水するものは地中茎を伸ばす。水中茎につく葉は1面のみで疎ら

に互生し、2叉状に1~3回分裂する。捕虫囊は多分岐する角状突起と単純な吻をもつ。吸収毛は短いX字状。種子は扁平で幅広い翼片をもつ。暖地生で冬芽を作らない。

7. イトタヌキモ

G 水面下に浮遊または沈水生。葉は1~4面からなり密に互生し、2叉状または羽状に2~6回分裂する。種子は5~7角形のプリズム状。

H 沈水生。水中茎とは別に底泥中へ無色の地中茎を伸ばす。葉は1面的で、叉状に2~6回分裂する。捕虫囊は多分岐した長い角状突起をもつ。冬芽を作る。

I 葉はやや疎らに互生し、輪郭は卵形または半円形で、最終裂片はごく短い針状または糸状、頂端にのみ単一の小刺毛をもつ。捕虫囊は水中茎と地中茎に多数生じ、吸収毛は4叉状でπ字形または一側へ片寄る。花は淡黄色で、距は短い円錐形。

8. ヒメタヌキモ

I 葉は密に互生し、輪郭は円形または楕円形、最終裂片は扁平な針状または細いテープ状で、側面と頂端に各1本の小刺毛をつけるが目立たない歯状突起を多くもつ。捕虫囊は水中茎には殆ど生じなく、吸収毛は4叉状で平行に並ぶ。花は鮮黄色で、距は円筒形。

9. コタヌキモ

I 葉の最終裂片は多数で、細長い糸状、先端は尖り側面の歯状突起が目立つ。捕虫囊は水中茎の葉にも多く生じ、吸収毛は4叉状でX字状を示す。花は鮮黄色または橙黄色で、距は短い円筒形。

10. ヤチコタヌキモ

I 葉の最終裂片はやや扁平で、先端は尖る。捕虫囊は水中茎の葉にも生じ、吸収毛は細長くややπ字状を示す。花茎は紅紫色を帯び、花はやや小型で橙黄色、距は短い円錐形。8と9の自然交配種。

11. ベンテンコタヌキモ

H 浮遊または沈水生。地中茎を出さないが呼吸枝を伸ばす。葉は密に互生し、2~4面からなり、各々は羽状に多分裂する。捕虫囊は比較的短い単純な角状突起をもつ。

J 花茎に鱗片をつけない。葉は2~4面からなり、最終裂片は細長い糸状。

K 葉の羽片は初め平面的であるが、次第に立体的に分裂して毛筆状を呈す。苞は卵形、基部でつく。小花柄は果期にも伸長して反曲し、上部が肥厚する。柱頭も花後生長してトックリ形の果実を形成する。距は円錐形で、花冠下面と共に有毛。冬芽を作らない。

12. ノタヌキモ

K 葉はごく僅かの捕虫囊しかつけず、最終裂片には側面に歯状突起などがなく、先端にのみ1~3本の小刺毛をつける。苞は半円形または心形で、やや茎を抱く。閉鎖果と冬芽を作る。日本固有種。

13. フサタヌキモ

J 花茎に鱗片をつける。葉はふつう2面で、多数の捕虫囊をつける。最終裂片は狭針形

または糸状で、側面に数個の歯状突起をもち、それらの先端と裂片頂端に1本の小刺毛をつける。捕虫囊は単純に分岐した角状突起をもち、吸収毛は短腕と長腕に分かれ、X字状またはやや π 字状となる。

- L. 暖地生または寒地生で、冬芽を作る。主茎の長さは0.2~1 m, 貧栄養型で側枝に紡錘形の不定芽を多出するものもある(チョウシタヌキモ)。葉は付け根で均等に2面をなす。最終裂片には歯状突起が目立つ。捕虫囊は単純な角状突起をもち、吸収毛はやや π 字状。花冠の下唇は水平に横に拡がり、仮面部は無毛、距は短く幅広い円錐形。

14. タヌキモ

- L. 寒地生で、冬芽を作る。主茎の長さは1 m以上。葉は2面に分かれ、更に付け根で大小2面に分かれる。最終裂片には歯状突起が目立たない。葉には大小様々な捕虫囊を多生する。捕虫囊の角状突起は非常に短く、吸収毛は平行かわずかに開いたX字状。花冠下唇の縁辺は垂れ下がり、仮面部は大きくて有柄腺をつける、距は狭い円柱形で下唇と同長または2/3の長さ。北日本に分布する。

15. オオタヌキモ

3. 日本産食虫植物の学名一覧

モウセンゴケ科 Droseraceae

1. ムジナモ *Aldrovanda vesiculosa* L.
2. イシモチソウ *Drosera peltata* Thunberg (= *D. nipponica* Masamune; *D. peltata* Smith var. *lunata* Clarke)
3. ナガバノイシモチソウ *Drosera indica* L. (= *D. makinoi* Masamune; *D. indica* L. var. *makinoi* (Masamune) Tamura)
- 3-2. シロバナナガバノイシモチソウ *D. indica* L. f. *albiflora* Makino
4. コモウセンゴケ *Drosera spatulata* Labill.
5. トウカイコモウセンゴケ *Drosera tokaiensis* (Komiya & Shibata) T. Nakamura & Ueda
6. モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* L.
7. ナガバノモウセンゴケ *Drosera anglica* Hudson
8. サジバモウセンゴケ *Drosera* × *obovata* Mert. & Koch

タヌキモ科 Lentibulariaceae

1. ムシトリスミレ *Pinguicula macroceras* Link (= *P. vulgaris* L. sensu Matsumura;

- P. vulgaris* L. var. *macroceras* (Link) Herder)
2. コウシンソウ *Pinguicula ramosa* Miyoshi (= *P. villosa* L. var. *ramosa* (Miyoshi) Tamura)
 3. ホザキノミミカキグサ *Utricularia caerulea* L. (= *U. racemosa* Wall. ex Walpers)
 4. ヒメミミカキグサ *Utricularia minutissima* Vahl (= *U. nipponica* Makino)
 5. ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl (= *U. affinis* Wight; *U. yakusimensis* Masamune)
 - 5-2. シロバナミミカキグサ *U. uliginosa* Vahl f. *albida* (Makino) Komiya
 6. ミミカキグサ *Utricularia bifida* L.
 7. イトタヌキモ (ミカワタヌキモ, ワスレタヌキモ) *Utricularia exoleta* R.Br. (= *U. nagurai* Makino; *U. gibba* L. ssp. *exoleta* (R.Br.) P. Taylor)
 - 7-2. ナガレイトタヌキモ *U. exoleta* R.Br. f. *natans* Komiya
 8. ヒメタヌキモ *Utricularia minor* L. (= *U. multispinosa* Miki)
 - 8-2. フトヒメタヌキモ *U. minor* L. f. *stricta* Komiya
 - 8-3. ナガレヒメタヌキモ *U. minor* L. f. *natans* Komiya
 - 8-4. チビヒメタヌキモ *U. minor* L. f. *terrestris* Glück
 9. コタヌキモ *Utricularia intermedia* Hayne
 10. ヤチコタヌキモ *Utricularia ochroleuca* R. Hartman (= *U. intermedia* Hayne f. *ochroleuca* (Hartm.) Komiya)
 11. ベンテンコタヌキモ *Utricularia* × *bentensis* Komiya
 12. ノタヌキモ *Utricularia aurea* Lour. (= *U. flexuosa* Vahl; *U. pilosa* Makino)
 - 12-2. モンナシノタヌキモ *U. aurea* Lour. f. *immaculata* Tamura
 13. フサタヌキモ *Utricularia dimorphantha* Makino
 14. タヌキモ (イヌタヌキモ) *Utricularia australis* R.Br. (= *U. japonica* Makino; *U. vulgaris* L. var. *japonica* (Makino) Tamura; *U. neglecta* Lehm.; *U. tenuicaulis* Miki; *U. shiakujiensis* S. Nakajima)
 - 14-2. チョウシタヌキモ *U. australis* R.Br. f. *fixa* Komiya & Shibata
 15. オオタヌキモ *Utricularia macrorhiza* Le Conte

4. 都道府県別の食虫植物分布

北海道：小宮定志・外山雅寛・柴田千晶・勝俣員伊「北海道産の食虫植物」(1997)

ナガバノモウセンゴケ—豊富町上サロベツ(絶), 幌延町下サロベツ, 浜頓別, 大雪山沼の原, 江別市対雁(絶)

サジバモウセンゴケ—上サロベツ(絶), 下サロベツ, 大雪山沼の原
モウセンゴケ—全域に広く分布

ムシトリスミレー—芦別岳, 夕張岳, トッタベツ岳, チロロ山(西チロロ岳), 幌尻岳, ヤムイメトクスブリ(絶)

タヌキモ—ほぼ全域に広く分布

ベンテンコタヌキモ—上サロベツ, 対雁(絶), 東野幌, 弁天沼, 海岸沼, 室蘭市(絶)
ホザキノミミカキグサ—岩見沢市幌向(絶), 新篠津湿原(絶), 当別町(絶), 対雁(絶)

[追加] 月形町月ヶ湖—1998年9月5日勝俣と外山が発見(外山・勝俣 1999)

コタヌキモ—やや広く各地に点在

オオタヌキモ—霧多布ジュンサイ沼, 豊頃町, 大樹町キンモウトウ沼, 弁天沼, 柏原東湿原, ウトナイ湖北東岸 [追加] 浅茅野湿原, ベニア原生花園, 標津町, 美深町, 鷓川町, 厚真町, 江別市, 角山, 白老町(小宮他 2001, 笈田私信)

ヒメタヌキモ—やや広く各地に点在

ヤチコタヌキモ—上サロベツ, 浜頓別, 問寒別(絶), 幌延町曙, 北村美唄達布, 中の沼, 幌向(絶), 新篠津, 東野幌, 厚真町奥井沼, 室蘭市(絶), 黒松内町(絶)

ムラサキミミカキグサ—釧路湿原温根内, 浦臼町(絶), 月ヶ湖湿原, 新篠津(絶), 江別市(絶), 札幌市(絶), 弁天沼, 柏原東湿原, 静狩湿原

[追加] シロバナミミカキグサ—弁天沼, 柏原東湿原, 静狩湿原

チビヒメタヌキモ—鷓川町汐見(外山 2001), 弁天沼(植松ら 2002)

伊藤浩司他編「北海道高等植物目録 IV」(1987) 103~105 頁にタヌキモ科のリストあり
カラフトムシトリスミレー *P. villosa*—? 釧路 (注) 出典不明, 存在し得ない

ムシトリスミレー—胆振(大滝), 日高山系, 夕張山系, 大雪山系, 釧路 とあるが最初と後2者の証拠標本は見当たらない

シロバナムシトリスミレー? と示されているのみ

フサタヌキモ—十勝(池田), 釧路 (注) 杉本順一「日本草本植物総検索誌・双子葉篇」(1965) を出典として示しているが, 誤同定の疑いが濃い

コタヌキモ—9 地域

ヒメタヌキモ—9 地域

ナガレヒメタヌキモ—渡島(森)

ヤチコタヌキモ—胆振, 後志, 空知, 宗谷 (注) *U. minor* f. *ochroleuca* と間違った学

名を使用

フトヒメタヌキモ—渡島

ホザキノミミカキグサー—石狩, 空知, 釧路 (注) 釧路は間違いである

シロバナホザキノミミカキグサー? *U. racemosa* f. *leucantha*, comb.nov. としている

タヌキモ—13 地域

ムラサキミミカキグサー—渡島, 胆振, 石狩, 空知, 釧路

シロバナミミカキグサー? と示されているのみ

北関東・東北: 上野雄規編「北本州産高等植物チェックリスト」(1991) —北関東3県, 新潟県, 東北7県について, 該当種が分布するか否かをスポットで示している

ムジナモ—群馬, 茨城 (いずれも絶)

ナガバノモウセンゴケ—群馬, 新潟, 福島

ナガバノイシモチソウ—栃木, 茨城

サジバモウセンゴケ—群馬, 福島

イシモチソウ—茨城

モウセンゴケ—各県

コモウセンゴケ—茨城, 福島, 宮城

コウシンソウ—群馬, 栃木

ムシトリスミレー—茨城を除く全県

ノタヌキモ—群馬, 茨城, 新潟

ミミカキグサー—各県

フサタヌキモ—新潟, 宮城(絶), 秋田, 岩手 (注) 1988年8月17日土屋守が平泉町上達谷で発見, 1994年7月11日小宮が中尊寺境内でも発見(上野 1997), 1996年佐々木らによって秋田県横手市と南外村でも発見されて本種の現存が確かめられた(小宮・上野・佐々木 1999)

コタヌキモ—宮城を除く各県, 但し, 福島のはヤチコタヌキモであるという (注) 福島県と言っても恐らく尾瀬を指す, 青森県八甲田山のものもヤチコタヌキモである

ヒメタヌキモ—宮城を除く各県

ホザキノミミカキグサー—青森を除く各県

ムラサキミミカキグサー—各県

タヌキモ—各県

[追加] オオタヌキモ—青森(津軽), 秋田(雄和町) (注) 1991年7月17日小宮・柴田が津軽郡木造町で発見し(小宮・外山他 1997), さらに1997年10月21日小宮・

柴田が雄和町で採集した（沖田 2000；小宮・外山他 2001）

青森県：細井幸兵衛「青森県野生植物目録」（1994）

モウセンゴケ—やや希

ムシトリスマレー希

イヌタヌキモ—やや希

ミミカキグサ—希

フサタヌキモ—確認せずとあるが、疑問

コタヌキモ—やや希 （注）八甲田山谷地湿原産のものはヤチコタヌキモである

ヤチコタヌキモ—希

ヒメタヌキモ—希

ナガレヒメタヌキモ—希

タヌキモ—やや希

ムラサキミミカキグサ—やや希

[追加] オオタヌキモ—西津軽郡木造町，鯡ヶ沢町（小宮・外山・沖田・柴田 2001）

岩手県：岩手植物の会「岩手県植物誌」（1970）

モウセンゴケ—19 地点

ムシトリスマレー—早池峰山，八幡平，岩手山，秋田駒，焼石岳，栗駒山 （注）八幡平と岩手山には白花品が希にあるという

ミミカキグサ—北上市稲瀬，水沢，若柳，一関市蘭梅山（ごく希）

タヌキモ—12 地点

ヒメタヌキモ—松尾町島沼，滝沢町春子谷地，盛岡市扇川（花を見ない，ごく希）

ホザキノミミカキグサ—盛岡市岩山，稲瀬，春子谷地，水沢，若柳（ごく希）

ムラサキミミカキグサ—13 地点（希）（注）シロバナミミカキグサが都南村飯岡にあるという

[追加] フサタヌキモ—平泉町上達谷，中尊寺境内（上野 1997）

宮城県：宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会編「宮城県植物目録 2000」（2001）

モウセンゴケ—15 地点

コモウセンゴケ—吉田浜（亘理），花釜・新浜・牛橋（山本）

ムシトリスマレー—栗駒山，蔵王連山不忘山，二口（仙台）

ミミカキグサ—8 地点

ホザキノミミカキグサ—4 地点

フサタヌキモ—相野沼（涌谷），大沼（仙台）（注）いずれも絶（上野 1997）

ヒメタヌキモ—大倉（仙台），大内（丸森），ナガレヒメタヌキモもありと注記

イヌタヌキモ—14 地点

ムラサキミミカキグサ—19 地点，シロバナミミカキグサもありと注記

タヌキモ—26 地点，チョウシタヌキモもありと注記

秋田県：藤原睦夫「秋田県植物目録 8版」（1996）

ナガバノモウセンゴケ（注）出典は村松七郎「秋田県植物誌」（1932）としているが、
疑問

モウセンゴケ

ムシトリスミレ

タヌキモ

ミミカキグサ

ホザキノミミカキグサ

コタヌキモ（注）出典は村松七郎「秋田県植物誌」（1932）という

ヒメタヌキモ

イヌタヌキモ（稀）

ムラサキミミカキグサ

シロバナミミカキグサ（稀）

[追加] フサタヌキモ—横手市，南外村（小宮・上野・佐々木 1999）

オオタヌキモ—雄和町戸賀沢（沖田 2000）

山形県：結城嘉美「新版 山形県の植物誌」（1992）

モウセンゴケ—鳥海山，月山，村山市葉山，船形山，山形市千歳山，小国町（普）

ムシトリスミレ—月山，朝日岳，蔵王山，山形市山寺，滝山，吾妻山，飯豊山（やや希）

ミミカキグサ—大石田町，村上市河島，山辺町琵琶沼，西川町大井沢，南陽市赤湯，飯
豊町眺山（やや希）

コタヌキモ—山辺町琵琶沼，南陽市白竜湖（やや希）

ヒメタヌキモ—山辺町曲沼，琵琶沼，白竜湖，飯豊町沼の口（希）

ホザキノミミカキグサ—大石田町，河島，赤湯，飯豊町眺山（やや希）

イヌタヌキモ—琵琶沼，寒河江市平野山麓中沼（普）

ムラサキミミカキグサ—鳥海山，羽黒山，大石田町，河島，琵琶沼，赤湯，眺山，白鷹
町鮎貝（やや希）

タヌキモ—松山町松嶺，白竜湖，沼の口，小国町

[追加] フサタヌキモ—鶴岡市若葉町と南陽市白竜湖で採集された古い標本が残されて

いるが、いずれも絶（上野 2000）

福島県：福島県植物誌編さん委員会「福島県植物誌」（1987）

ナガバノモウセンゴケ—尾瀬（南限）

モウセンゴケ—16 地点，（普）

コモウセンゴケ—いわき市四倉町（絶）[追加] 富岡町小良ヶ浜で 1998 年 4 月上旬堀富男が新しく発見（堀 1998）

サジバモウセンゴケ—尾瀬（南限）

ムシトリスミレー—吾妻山，飯豊山，西白河郡旭岳，只見町

ミミカキグサ—11 地点

ヤチコタヌキモ—尾瀬

タヌキモ—23 地点

チョウシタヌキモ—7 地点

イヌタヌキモ—8 地点

ヒメタヌキモ—飯館村，表郷村，湖南町，塩原村，赤井谷地，田島町

フトヒメタヌキモ—檜葉町

ナガレヒメタヌキモ—郡山市三穂田町，北塩原村，猪苗代町

ムラサキミミカキグサ—17 地点，希にシロバナミミカキグサもあるという

茨城県：鈴木昌友，他「茨城県植物誌」（1981）

ムジナモ—霞ヶ浦，下館市，水海道市（すべて絶）

ナガバノイシモチソウ—岩瀬町，神栖町，谷田部町，下館市（県南に希）[追加] 安食町シロバナナガバノイシモチソウ—下館市（希）（注）関東に分布するナガバノイシモチソウはすべて白花品である

イシモチソウ—神栖町（希）

モウセンゴケ—10 地点（やや普通）

コモウセンゴケ—北茨城市，高萩市，神栖町（希）

ノタヌキモ—水戸市仙波沼，玉造町立花，石下町飯沼（希）

ミミカキグサ—岩瀬町，内原町，岩間町，麻生町，神栖町，大和町（やや希）

タヌキモ—高萩市，里美村，常陸太田市，大子町，水戸市，竜ヶ崎市（やや希）

ヒメタヌキモ—水戸市緑岡，東村大須賀（希）

ホザキノミミカキグサ—岩間町，神栖町（希）

イヌタヌキモ—玉造町立花（希）

ムラサキミミカキグサ—高萩市君田，岩間町（希）

栃木県：橋本千春・森谷憲「栃木県植物目録」(1968)

シロバナナガバノイシモチソウー南河内町，上三川町磯川湿地（いずれも絶）

[追加] 河内町下田原で1992年夏に発見され，同年9月30日小倉洋志が確認した（小宮 1994b）

モウセンゴケー平地～山地にやや普通

コウシンソウー女峰山，男体山，庚申山

ムシトリスミレー男体山 [追加] 前白根山で1970年8月小倉洋志が確認している

ミミカキグサーー大田原市佐久山，塩谷町，壬生町天神沼，上三川町磯川湿地（絶）

コタヌキモー大田原市親園，戦場ヶ原，古峰ヶ原峠

タヌキモー那須廻谷，大田原市親園，宇都宮市鶴田沼，上三川磯川湿地

ヒメタヌキモー喜連川町河戸，壬生町天神沼

ノタヌキモー越名沼

ホザキノミミカキグサーー那須山麓，磯川湿地，壬生町天神沼

ムラサキミミカキグサーー那須山麓，大田原市佐久山，喜連川町河戸，磯川湿地

シロバナミミカキグサーー宇都宮市城山（絶）

群馬県：群馬県高等学校教育研究会生物部会「群馬県植物誌，改訂版」(1987)

ムジナモー館林市多々良沼，他（絶）

ナガバノモウセンゴケー尾瀬（希）

サジバノモウセンゴケー尾瀬（希）

モウセンゴケー12地点，うち館林市近藤沼（絶）

コウシンソウー袈裟丸山（希）

ムシトリスミレー荒船山，谷川連峰，利根川源流部，尾瀬，武尊山，赤城山

ノタヌキモー館林市（希）

ミミカキグサーー尾瀬，勢多郡大胡町，館林市（希）

コタヌキモー尾瀬（注）尾瀬に分布するものはヤチコタヌキモである

ヒメタヌキモー大峰山

ナガレヒメタヌキモー多々良沼（希）（注）既に絶

ヤチコタヌキモー尾瀬ヶ原

ホザキノミミカキグサーー館林市（絶）

イヌタヌキモー尾瀬，大峰山（希）

タヌキモー浅間高原，大峰山，三峰山，小池沼，富岡市，桐生市，館林市多々良沼

ムラサキミミカキグサーー尾瀬，大峰沼

埼玉県：伊藤洋編「1998年版 埼玉県植物誌」(1998)

モウセンゴケ

ホザキノミミカキグサ

タヌキモ

ムラサキミミカキグサ—いずれも分布図なし

[追加] ムシトリスミレー武甲山で1961年7月21日、大滝村魔羅振岩で1965年頃能見
三郎が発見し、現存する(小宮・柴田 1999)。植物目録には載っていないが、カラー
頁に写真が出ており、高橋重男“埼玉の被子植物”の解説文中(89頁)にも記述あ
り。リスト収載漏れか?

ミミカキグサ—加須市浮野、日高市仙女ヶ池(絶)、嵐山町鎌形(絶)、寄居町鉢形
寄居町教育委員会編「県指定天然記念物ミミカキグサとモウセンゴケ自生地保護増殖
事業報告書」(1997)に記録されている

千葉県：千葉県史料研究財団編「千葉県植物誌」(千葉県の自然誌、別編4、印刷中)

ムジナモ—市川市国府台(絶)

イシモチソウ—夷隅町(絶)、成東町、長生村、茂原市(絶)、他9地点

ナガバナイシモチソウ—長生村、成東町、茂原市(絶)、一宮町(絶)、他15地点

コモウセンゴケ—銚子市、成東町、長生村、他9地点

モウセンゴケ—16地点

ホザキノミミカキグサ—12地点

ムラサキミミカキグサ—7地点

シロバナミミカキグサ—成東湿地、海上町蛇園

ミミカキグサ—11地点

ヒメタヌキモ—7地点(ほぼ絶) (注)コタヌキモの記録もあるが、同定間違いでヒメタ
ヌキモまたはタヌキモである

ノタヌキモ—成東町、市川市ジュンサイ沼、手賀沼(ほぼ絶)

タヌキモ・イヌタヌキモ—25地点

東京都：東京都環境保全局編「東京都の保護上重要な野生生物種 1998年版」(1998)

ムジナモ—東部(絶)

モウセンゴケ—西部(絶滅危惧) (注)伊豆諸島(八丈島・三宅島)には現存する
コモウセンゴケ—伊豆(希)

タヌキモ—東部・西部(絶滅危惧) (注)激減し、生育地ごくわずか とコメントあり

ムラサキミミカキグサ—西部(ほぼ絶)

ジャクジイタヌキモ—東部 (絶)

東京都環境科学研究所「東京都の水生植物に関する調査研究結果報告書」(1997)にはタヌキモ類は皆無となっている

佐藤潤平「武蔵野植物誌」(1986)にはモウセンゴケ科・タヌキモ科の記録なし

神奈川県：神奈川県植物誌調査会・神奈川県立博物館編「神奈川県植物誌 1988」(1988)

モウセンゴケ—仙石原, 箱根峠海の平 (絶)

イシモチソウ—仙石原 (絶)

コモウセンゴケ—鎌倉市俣野 (絶)

ムラサキミミカキグサ—仙石原, 藤沢市くげ沼 (絶)

タヌキモ—仙石原, 相模湖町

ミミカキグサ—藤沢市くげ沼 (絶)

ホザキノミミカキグサ—藤沢市くげ沼 (絶)

ヒメタヌキモ—くげ沼, 高座西俣野 (絶)

ノタヌキモ—旭区上白根 (絶)

神奈川県植物誌調査会編「神奈川県植物誌 2001」では、タヌキモの産地として二宮町川匂 (移入?), そして、イヌタヌキモ—川崎市黒川 (絶), 厚木市上荻野 (絶), 登戸 (絶), 厚木市中荻野 (絶) のみが追加されている

新潟県：片桐義昭「新潟県の食虫植物 (2)」(1976)：「新潟県の食虫植物 追補」(1977)

ムジナモ—新潟市小針 (絶)

モウセンゴケ—91 地点+23 地点「追補」

ムシトリスミレー—飯豊山, 他 13 地点+3 地点 [追加] 村松町早出峽 (標高 220 m) の他, 糸魚川市明星山 (標高 270 m) など低山地にも多くの自生地が確認された (小宮・柴田 1999)

ホザキノミミカキグサ—16 地点+2 地点

ミミカキグサ—27 地点+4 地点

ムラサキミミカキグサ—29 地点+6 地点

シロバナミミカキグサ—朝日村中原, 荒川町中野, 見附市杉澤町

ヒメタヌキモ—7 地点+1 地点

フトヒメタヌキモ—北魚沼郡広神村+上川村栃堀

コタヌキモ—聖籠村蓮野 (絶)

ノタヌキモ—9 地点+1 地点

フサタヌキモ—6 地点 (すべて絶) [追加] 中頸城郡三和村で 1998 年秋に長谷川康雄ら

によって新たに発見された (石高 2000)

タヌキモ—60 地点 + 9 地点

イヌタヌキモ—5 地点 + 2 地点

チョウシタヌキモ—朝日村高根田向の池 + 青海町清水倉

ナガレヒメタヌキモ (追捕) —早出峽金ケ谷, 妙高高原町笹ヶ峰カンバ澤湿原 (注) 前者はチビヒメタヌキモと同定された (Komiya & Shibata 1980)

富山県: 大田弘・小路登一・長井眞隆「富山県植物誌」(1983)

モウセンゴケ—10 地点, 他

コモウセンゴケ—大沢野町満願寺, 婦中町各願寺, 小杉町平野 (注) トウカイコモウセンゴケと同定された (吉田・小宮・中田 1996)

コウシンソウ—雲の平 (麦島脩一郎) ごく希に生育 (注) と記されているが, 同定の間違いか?

ムシトリスミレ—15 地点, 他

ミミカキグサ—6 地点, 他

ノタヌキモ—5 地点, 他

ホザキノミミカキグサ—朝日町小川谷, 八尾町深谷 (ごく希)

ムラサキミミカキグサ—5 地点, 他

石川県: 石川植物の会編「石川県植物誌」(1983)

イシモチソウ—能登外浦, 県南西部 (希)

モウセンゴケ—全域

コモウセンゴケ—県南西部 (希) (注) トウカイコモウセンゴケである, 小松市の 1ヶ所にのみ自生 (瀬野 2001 b)

ムシトリスミレ—白山 (ごく希)

ミミカキグサ—能登外浦, 内浦 (希)

タヌキモ—ほぼ全域

ヒメタヌキモ—能登外浦 (希)

ヒメミミカキグサ—県中部 (ごく希, 絶?) (注) 同定に疑問がある

ノタヌキモ—能登外浦 (希)

ホザキノミミカキグサ—能登外浦, 内浦

ムラサキミミカキグサ—能登外浦, 内浦, 県南西部 (希)

福井県: 渡辺定路「福井県植物誌」(1989)

モウセンゴケ—10 地点

ムシトリスミレー三ノ峰

ミミカキグサー六呂師, 池ノ河内, 美浜町丹生

ノタヌキモ一地点

ホザキノミミカキグサー六呂師, 味真味, 池ノ河内, 三国山, 野坂岳

タヌキモ一六呂師, 小矢谷, 金津町笠岡, 大虫, 池ノ河内, 三方町

ムラサキミミカキグサー七地点

山梨県: 山梨県県民生活局環境公害課編「山梨県植物誌」(1982)

モウセンゴケ一清里高原, 乾徳山 (少)

ホザキノミミカキグサー八代町大口山 (希)

ミミカキグサー八代町大口山 (希)

タヌキモ一韮崎市清哲鷹田の池, 美し森羽衣の池 (ごく希)

ムシトリスミレー千丈ヶ岳白岩, 駒ヶ岳尾白川溪谷, 八ヶ岳・権現岳, 地獄谷

植松春雄「山梨の植物誌」(1981)

モウセンゴケ一八ヶ岳, 八代町大口山山麓, 甲府市黒平など (普)

ムシトリスミレー八ヶ岳, 北岳 (希)

ミミカキグサー御坂山脈 (ごく希)

ノタヌキモ一甲府盆地 (希)

タヌキモ一ほぼ全域 (希)

ムラサキミミカキグサー御坂山脈 (ごく希)

シロバナミミカキグサー御坂山脈

長野県: 長野県植物誌編纂委員会編「長野県植物誌」(1997)

モウセンゴケ一10 地点, 他全域

コモウセンゴケ一根羽村浅間 (ごく希) (注) 同定の間違い, 指示された標本 SHIN-141719 (1989.8.18 浅野一男採) はモウセンゴケである

ホザキノミミカキグサー一 大町市居谷里, 御代田大池, 上松町上松, 下条村新田, 松川町大島池ノ平, 他全域

ムシトリスミレー一 岩菅山, 白馬大池, 白馬岳, 餓鬼岳, 乗鞍岳, 浅間山, 八ヶ岳・天狗岳, 横岳, 長谷村暮岩 [追加] この他, 八方尾根・木曾駒ヶ岳など多くの自生地が知られており, 最古の発見地である戸隠山(1884年矢田部他)でも1999年に小宮・柴田らが再確認した(小宮・柴田 2000c)

ミミカキグサー一 9 地点, 他全域

ムラサキミミカキグサー一 白馬村落倉, 大町市居谷里, 御代田大池, 南木曾町袖山, その

他各地

シロバナミミカキグサ—大町市居谷里

ヒメタヌキモ—信濃町種池, 白馬村親海, 大町市居谷里など7地点, 他北部・南部 (希)

コタヌキモ—八島ヶ原, 蓼科池ノ平 (希)

ヤチコタヌキモ—八島ヶ原, 車山, 踊場湿原下 (希)

イヌタヌキモ—11地点, 他全域

タヌキモ—飯山市沼池, 大町市木崎湖, 山口村青野, 他全域

岐阜県: 岐阜県高等学校生物教育研究会編「岐阜県の植物」(1966)

イシモチソウ

モウセンゴケ

コモウセンゴケ (注) トウカイコモウセンゴケである (瀬野, 印刷中)

ムシトリスマミレー乗鞍 [追加] 根尾村・板取村・上宝村でも発見された (成瀬 1999;
小宮・柴田 2000 c)

ミミカキグサ

タヌキモ

ホザキノミミカキグサ—美濃

ムラサキミミカキグサ

静岡県: 杉本順一「静岡県植物誌」(1984)

ナガバナノイシモチソウ—三方が原, 湖西市 (ごく希)

シロバナナガバナノイシモチソウ—浜北市 (ごく希)

イシモチソウ—25地点, 特に西南部に多い

モウセンゴケ—ほぼ全域

アカバナモウセンゴケ—浜北市森林公園, 浜松市大谷, 湖西市梅田 (ごく希) (注) f.
rubriflora Maruyama & Koike と品種名が付けられているが, 正規の記載はない

コモウセンゴケ—ほぼ全域 (注) 天竜川以西にはトウカイコモウセンゴケが多く分布するが, そのことには全く触れていない

シロバナコモウセンゴケ—湖西市白須賀 (ごく希, 絶?) (注) f. *chionantha* Nakajima
とあり, 正規の記載なし

ムシトリスマミレー—荒川岳, 赤石岳 (希, 絶)

ノタヌキモ—17地点 (希でない)

ミミカキグサ—32地点 (やや普)

フサタヌキモ—浮島沼, 美和町足久保沼, 桶ヶ谷沼, 浜松市都田, 有玉, 湖西市 (やや

希) (注) 既に全て絶

イトタヌキモ (ミカワタヌキモ) - 浮島沼, 三方が原, 三ヶ日, 湖西市 (希)

コタヌキモ - 沼津市大平, 藤枝市 (希, 絶?)

タヌキモ - 12 地点 (普)

イスタヌキモ - 浮島沼, 三方が原周辺, 三ヶ日 (希)

ヒメタヌキモ - 長田, 湖西市新所原 (希)

ヒメミミカキグサ - 湖西市梅田 (希, 絶)

シロバナヒメミミカキ - 母種に混じってごく希

ホザキミミカキグサ - 17 地点 (普)

シロバナホザキミミカキ - 浜岡, 浜松市都田, 湖西市 (希) (注) 既に絶

ムラサキミミカキグサ - 14 地点 (希でない)

シロバナミミカキグサ - 東伊豆稲取, 浜松市, 細江町, 湖西市 (希)

愛知県: 芹沢俊介「愛知県および岐阜県東濃地方の丘陵・低山地における湿地性植物の現状」(愛知教育大学植物標本室報告 1号, 1992)

ナガバノイシモチソウ - 豊橋市北部, 南部 [追加] 豊明市

シロバナナガバノイシモチソウ - 豊橋市南部, 田原町 [追加] 武豊町

イシモチソウ - 10 地点

モウセンゴケ - 49 地点

コモウセンゴケ - 常滑市, 半田市, 武豊町, 美浜町

カンサイガタコモウセンゴケ - 37 地点 (注) トウカイコモウセンゴケの古い和名(亜種名)である

ミミカキグサ - 44 地点

ミカワタヌキモ - 長久手町, 豊田市北西部, 岡崎市南部

コタヌキモ - 一宮町, 藤岡町, 田原町 (注) 葦毛湿原では細谷町広見から移入されたものが増殖中

ヒメミミカキグサ - 豊田市北西部, 日進町, 豊明市, 名古屋市南東部 [追加] 豊橋市 細谷町広見・葦毛湿原と武豊町壱町田湿地にも現存する (小宮 1994 a)

ヒメタヌキモ - 豊橋市 (絶?)

ホザキノミミカキグサ - 50 地点

権田昭一郎「愛知県の湿原植物」(愛知県高等学校生物教育研究会編「愛知の植物」143-155 頁, 1971)

モウセンゴケ

コモウセンゴケ—各地 (注) 殆どがトウカイコモウセンゴケである

イシモチソウ—各地に点在

ナガバノイシモチソウ—勅使池, 東山, 他 (注) 豊明に残存する他すべて絶

シロバナナガバノイシモチソウ—西山, 渥美, 高師, 安城, 豊明, 大府 (注) すべて絶, 武豊町壱町田湿地にのみ残存

タヌキモ—各地

コタヌキモ—東山, 善師野, 小堤西池

ミカワタヌキモ—東山, 善師野, 豊明

ノタヌキモ—小堤西池

フサタヌキモ—小堤西池, 井ヶ谷池 (絶)

ミミカキグサ—各地に多い

ムラサキミミカキグサ—各地に多い

ホザキノミミカキグサ—各地に多い

シロバナミミカキグサ—新城

ヒメミミカキグサ—東山 [追記] 既に絶, 現存するところは, 武豊町壱町田湿地, 豊明市大伏間, 豊橋市細谷町広見, 葦毛湿原のみである (小宮 1994 a)

三重県: 伊藤武夫「改訂 三重県生物目録, 高等植物篇」(1955)

ナガバノイシモチソウ—玉垣, 金生水 (絶)

シロバナノナガハイシモチソウ—玉垣

イシモチソウ

モウセンゴケ

コモウセンゴケ—山田市, 金生水, 伊賀中瀬, 名張, 木ノ本 (注) 殆どがトウカイコモウセンゴケである

ムラサキミミカキグサ—金生水, 伊賀上野, 藤原岳, 御館大池, 木ノ本, 下野山城

シロバナノミミカキグサ—西柘植

ミミカキグサ—金生水, 名張, 藤原岳, 多度山, 下野山城, 木ノ本

フサタヌキモ—金生水 (絶) [追加] 木曾岬, 長島町, 伊勢市外宮 (1985年) でも発見されたが, 間もなくすべて消滅した (小宮 1995)

コタヌキモ—金生水 (絶), 御館大池 (絶)

タヌキモ

ヒメタヌキモ—金生水, 長島町 (絶)

ミカワタヌキモ—在良, 大泉, 大矢知斎宮, 御館大池 (大群落をなす) (注) 全て絶

ヒメミミカキグサー御館大池, 金生水 (絶) [追加] 安井直康が1950年四日市市御池での発見につづいて, 1954年には上海老町大沼の2ヶ所でも発見したが, 全て絶 (小宮 1994 a) (注) 御池が御館大池の正式名である

ノタヌキモ一長島町中筋, 御館大池, 上野市, 高宮, 田丸

ホザキノミミカキグサー多度山, 下野山城, 御館大池, 金生水 (絶), 上野市

[追加] ムシトリスミレー1992年飯高町蓮奥の平沢で発見された (小宮・柴田 1999)

滋賀県: 北村四郎「滋賀県植物誌」(1968)

イシモチソウ 瀬田川, 真野, 田上, 鶏冠山, 桐生辻

モウセンゴケ 比良山, 浅井山

コモウセンゴケ 桐生辻, 田上吉祥寺川, 鏡山 (注) トウカイコモウセンゴケである (瀬野, 印刷中)

ノタヌキモ 膳所町別保, 平田村平石, 市辺村布施池

モンナシノタヌキモ 膳所中の庄

ミミカキグサー 三国山, 比良山, 山上町, 真野, 鏡山

フサタヌキモ 三井寺, 堅田町今堅田, 膳所本田池, 兵主村兵主神社 (注) すべて絶

ヒメタヌキモ 石山立木山, 布施池

ホザキノミミカキグサー 鏡山, 南比郡佐村清田, 三雲村三雲, 瀬田山

イヌタヌキモ 大津市松本, 浅井山

タヌキモ 大津市松本, 浅井山, 日野町松尾

ムラサキミミカキグサー 明王ガ禿, 牧野町, 飯道山

京都府: 竹内敬「京都府草木誌」(1962)

ムジナモ一巨椋池 (希) (注) 巨椋池から移植された深泥池でも1951年9月には全て絶 (小宮 1989)

イシモチソウ

モウセンゴケ

コモウセンゴケ 深泥池, 榎湿地 (希)

ノタヌキモ 巨椋池, 池尻

ミミカキグサ

フサタヌキモ 日野, 佐伯, 勝林島 (希) (注) 既に絶

ミカワタヌキモ 巨椋池 (希)

コタヌキモ 深泥池 (希)

ヒメタヌキモ 巨椋池, 奥条

ホザキノミミカキグサ

タヌキモ

ムラサキミミカキグサー (やや希)

大阪府：桑島正二「大阪府植物目録」(1990)

イシモチソウ—13 地点 (やや希)

モウセンゴケ—8 地点 (やや希)

コモウセンゴケ—妙見山, 信太山, 富田林市西山, 三峰山, 新家, 砂川 (やや希)

ノタヌキモ—13 地点 (やや希)

ミミカキグサー—7 地点 (やや希)

ヒメタヌキモ—室池, 蕎原 (希)

ホザキノミミカキグサー—7 地点 (やや希)

イヌタヌキモ—13 地点 (やや希)

タヌキモ—上新田, 室池, 信太山 (やや希)

ムラサキミミカキグサー—山辺, 室池 (希)

兵庫県：全県をまとめたリストなし

小林禧樹・黒崎史平・三宅慎也「六甲山地の植物誌」(1998)

イシモチソウ—藍那, 山田町西下, 百丈岩, 鎌倉峽, 六甲山, 苦楽園, 甲山, 北山, 道場, 玉瀬

モウセンゴケ—9 地点

コモウセンゴケ—藍那, 六甲山 (少)

トウカイコモウセンゴケ—岡田山 (少)

ノタヌキモ—藍那, 山田町小河, 須磨, 有馬温泉

ミミカキグサー—菊水山, 鈴蘭台, ロックガーデン, 六甲山, 清ヶ池, 奥池

ミカワタヌキモ—住吉村鴨子ヶ原 (絶)

エフクレタヌキモ—瀬池, 奥池 (注) アメリカ原産の *U. inflata* である, つまり逸出種である

ホザキノミミカキグサー—9 地点

イヌタヌキモ—木見峠, 千刈水源地付近, 山口町

ムラサキミミカキグサー—菊水山, 再度山, イモリ池, 奥池, 五ヶ山

角野康郎「兵庫県産水草目録 (新)」水草研究会会報 60 号 14-20 (1997)

タヌキモ

イヌタヌキモ

フサタヌキモ—(絶)

ノタヌキモ

ヒメタヌキモ—希または現生地不明

イトタヌキモ(ミカワタヌキモ)—希または現生地不明

エフクレタヌキモ(外来種)

奈良県：奈良県史編集委員会編「奈良県史 2, 動物・植物」(1990)

モウセンゴケ—大淀町佐名伝湿原, お亀池湿原

タヌキモ—水上池, 忍脛山湿原

ノタヌキモ—水上池

イトタヌキモ—水上池

フサタヌキモ—水上池 (注)既に絶

ヒメタヌキモ—水上池

コタヌキモ—忍脛山湿原

ミミカキグサ—忍脛山湿原, 大淀町佐名伝湿原, 榛原町伊耶佐山湿原, お亀池湿原

ムラサキミミカキグサ—忍脛山湿原, 佐名伝湿原, 伊那佐山湿原, お亀池湿原

ヒメミミカキグサ—お亀池湿原 (注)疑問, 恐らくホザキノミミカキグサかムラサキミ
ミカキグサの倭生型を見間違えたか?

「近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿」(1995) 54頁に“もともとは
近畿の他府県にも分布していたが, 現在では奈良県でしか確認できない植物”の1種
としてヒメミミカキグサが挙げられている

[追加] ムジナモ—巨椋池と深泥池から水上池へ移植されたものが1972年4月の確認を
最後に全て絶(小宮 1989)

和歌山県：全県をまとめたリストなし

三尾喜太郎「和歌山県有田地方植物誌」(1985)

モウセンゴケ—金屋町彦ヶ瀬

コモウセンゴケ—湯浅吉川

イシモチソウ—広川町れいがん寺 (注)栽培種のサスマタモウセンゴケ, ハエトリグ
サも記録

タヌキモ—湯浅吉川, 金屋町彦ヶ瀬 (注)栽培種のアミメミミカキグサ *U. reticulata*
も記録

宇井縫蔵「紀州植物誌」(1929)

イシモチソウ—9地点

モウセンゴケ—やや普

コモウセンゴケ—紀南地方に多い

タヌキモ—普

コタヌキモ—海草郡内

ミミカキグサ—鳴滝, 小倉, 岡崎, 野口, 新庄, 稲成, 朝来

ムラサキミミカキグサ—岡崎, 小倉, 鳴滝

ホザキノミミカキグサ—岡崎, 新庄, 稲成, 上秋津, 西富田

鳥取県: 全県をまとめたリストなし

鳥取県衛生環境部自然保護課編「鳥取県のすぐれた自然, 植物編」(1993)

モウセンゴケ—岩美町唐川湿原, 国府町菅野湿原, 若桜町古生沼湿原, 三朝町俵原ミツ

ガシワ湿原, 関金町蛇ヶたお湿原, 江府町鏡ヶ成湿原,

ムラサキミミカキグサ—唐川湿原

島根県: 全県をまとめたリストなし

丸山巖・林亨「しまねの草花」(1985)

モウセンゴケ—赤来町 (注) カラー写真集の1コマに記録

国井秀伸・国井加代子「松江市近辺の水草の分布に関する予報」植物と自然 19 (11): 31-34 (1985)

タヌキモ属 (タヌキモ, ノタヌキモ) の存在を記録

岡山県: 岡山大学農業生物研究所編「岡山大学農業生物研究所所蔵植物標本目録, 兼・岡山県植物目録」(1980) —県外産のものは除く

イシモチソウ—奈義町, 岡山市

モウセンゴケ—八束村

コモウセンゴケ—日生町 (注) トウカイコモウセンゴケである (瀬野, 印刷中)

ミミカキグサ—賀陽町, 岡山市

コタヌキモ—哲西町

タヌキモ—玉野市, 岡山市

ヒメタヌキモ—岡山市

ノタヌキモ—美作町

ホザキノミミカキグサ—加茂川町

ムラサキミミカキグサ—賀陽町, 奈義町

広島県: 広島大学理学部付属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会編「広島県植物誌」(1997)

イシモチソウー黒瀬町, 熊野町, 広島市, 福山市, 御調町, 尾道市, 世羅町, 久井町,
東広島市

モウセンゴケー32 地点

ノタヌキモー東広島市下見, 大和町津久, 三良坂町灰塚, 世羅西町黒川

ミミカキグサー22 地点

ホザキノミミカキグサー17 地点

イトタヌキモー東広島市宮東, 大和町萩原, 甲山町摺屋

コタヌキモー大和町, 甲山町, 世羅町

ヒメタヌキモー東広島市上寺家, 河内町元兼, 本郷町用倉, 世羅西町小国, 三次市南畑
敷

イヌタヌキモー13 地点

ムラサキミミカキグサー15 地点

土井美夫「広島県植物目録」(1983) には, コモウセンゴケ(福王寺山, 福山御幸)が記録
されているが, ノタヌキモ, イトタヌキモ, コタヌキモはなく, イヌタヌキモをタヌ
キモと同定している

山口県: 岡国夫ほか編「山口県植物誌」(1972)

イシモチソウー田床山, 三隅(希) (注) 絶(瀬野, 私信 2001)

モウセンゴケー9 地点(普)

コモウセンゴケー氷上, 由良, 阿知須, 笠戸島(やや希) [追加] 山口県産のものは全
て白花品である。山口県博物館に収蔵されている日置町で採集されたモウセンゴケ標
本(YAMG-10481)はコモウセンゴケである(瀬野 1995)。また, 阿知須のものはト
ウカイコモウセンゴケらしい(瀬野, 私信 2001)

ミミカキグサー9 地点(普)

タヌキモー6 地点(普)

ヒメタヌキモー長澤池, 高森(希)

ホザキノミミカキグサー11 地点(普)

ムラサキミミカキグサー福田, 松本, 鳴滝, 宮野, 松柄峠, 秋中(普)

徳島県: 阿部近一「徳島県植物誌」(1990)

モウセンゴケー23 地点

コモウセンゴケー鳴門市中山, 大津, 大代谷西奥, 島田島 (注) 鳴門市の2ヶ所以外は
絶(瀬野 2001 a)

イシモチソウー鳴門市大麻町検, 上板町泉谷, 土成町熊谷寺, 市場町喜来, 阿波町正広,

土柱, 脇町小屋, 池田町黒沢

ホザキノミミカキグサー—土成町山分, 熊谷寺, 鳴門市大麻町桧, 阿波町山尻, 正広, 土柱, 池田町黒沢

ムラサキミミカキグサー—池田町黒沢, 土成町熊谷寺 (不明確)

ミミカキグサー—川島町山田, 土成町熊谷寺, 阿波町西岡, 山尻, 池田町黒沢, 海南町四方原, 海部町櫛川, 穴喰町久保

ノタヌキモ—川島町山田, 板野町ジュガマル池, 由岐町山座

タヌキモ—9 地点

イスタヌキモ—川島町山田, 池田町黒沢, 海南町多良

ムシトリスミレー—石立山

香川県：香川県「香川県植物誌」合弁花 (1980), 離弁花 (1981)

イシモチソウ—観音寺市, 高瀬町, 高松市 (希)

コモウセンゴケ— (希) (注) 香川県産のものはトウカイコモウセンゴケである (瀬野 1995)

モウセンゴケ—大野原町, 観音寺市, 坂出市 (少)

ホザキノミミカキグサー—観音寺市, 坂出市, 三木町 (希)

ミミカキグサー—観音寺市, 満濃町, 坂出市 (希)

ノタヌキモ—坂出市, 牟礼町 (少)

タヌキモ—綾南町 (希)

三木雅博「香川県の食虫植物」(食虫植物研究会誌 41 号 13~16 頁, 1967); 追記(同誌 42 号 40~41 頁, 1967)

モウセンゴケ—三木町田中 2 ケ所, 長尾町多和, 津田町, 小豆島, 満濃町, 五色台, 東植田 2 ケ所, 他

コモウセンゴケ—塩江町 (注) トウカイコモウセンゴケである。満濃池にも自生する(瀬野, 印刷中)

イシモチソウ—志度町, 岡本町, 三木町田中 4 ケ所, 長尾町, 塩江町, 津田町, 東植田 2 ケ所

ノタヌキモ—三木町田中, 塩江町 2 ケ所, 津田町, 東植田

ミミカキグサー—三木町田中

ホザキノミミカキグサー—三木町田中, 東植田

タヌキモ—東植田 2 ケ所

愛媛県：山本四郎「愛媛県産植物の種類」(1978)

イシモチソウ—新居浜市, 東予市, 伊予市谷上山, 北宇和郡陣ヶ森, 他 (希) (注) 殆
ど絶 (瀬野, 私信 2001)

モウセンゴケ—各地 (普)

コモウセンゴケ—大洲市平野, 広見町, 鬼ヶ城山, 篠山, 他 (希)

ノタヌキモ—南宇和郡永の岡 (ごく希)

ミミカキグサ—各地 (希)

ホザキノミミカキグサ—各地 (希)

イヌタヌキモ—吉海町, 松山市祝谷 (ごく希)

タヌキモ—丹原町, 今治市, 砥部町, 三間町, 他 (希)

ムラサキミミカキグサ—東予市世田山, 重信町, 津島町御内, 他 (希)

高知県: 山中二男「高知県の植生と植物相」(1978)

モウセンゴケ—本山町, 伊吹山, 佐川町, 仁淀村, 鶴松森

コモウセンゴケ—安田町, 田野町 (希)

ムシトリスミレー—石立山

ミミカキグサ—東洋町, 高知市, 窪川町, 三原村

タヌキモ—物部村, 高知市, 伊野町

ノタヌキモ—(古い記録あり)

ホザキノミミカキグサ—鏡村, 高知市, 三原村

ムラサキミミカキグサ—高知市 (古い記録)

福岡県: 福岡県高等学校生物研究部会編「福岡県植物誌」(1975)

モウセンゴケ—(やや希)

コモウセンゴケ—北九州市, 北方 (希) (注) 絶 (瀬野 1995)

ミミカキグサ—平尾台, 香春岳, 春日市, 高良台, 広川町 (希)

ミカワタヌキモ—広川町, 筑後市羽犬塚 (希)

タヌキモ—北九州市門司, 香春岳, 山田市, 春日市, 筑紫野市 (希)

ノタヌキモ—北九州市, 福岡市, 春日市, 大野城市, 大牟田市 (希)

ホザキノミミカキグサ—平尾台, 高良台, 広川町 (希)

イヌタヌキモ—古賀町 (希)

ムラサキミミカキグサ—平尾台, 香春岳, 犀川町, 春日市, 広川町 (希)

佐賀県: 馬場胤義「佐賀県植物目録」(1981)

モウセンゴケ—8地点 (やや普)

コモウセンゴケ—北方町北方 (ごく希) (注) 絶 (瀬野 1995)

ムラサキミミカキグサー—東背振村大曲，神崎町日ノ隈山，富士町杉山，七山村桑原，巖木町天川，山内町赤田（希）

ノタヌキモ—日ノ隈山，佐賀市神野，唐津市鏡山，七山村桑原（やや希）

ミミカキグサー—東背振山三津，日ノ隈山，富士町杉山，黒髪山（やや希）

ミカワタヌキモ（イトタヌキモ）—佐賀市川久保，巖木町天川（ごく希）

ヒメタヌキモ—七山村桑原，相知町作礼山（ごく希）

ホザキノミミカキグサー—日ノ隈山，佐賀市金立，富士町杉山，七山村桑原（希）

タヌキモ—大和町北原，呼子町大友，黒髪山，嬉野町温泉四区（やや希）（注）岩村政浩「佐賀県におけるタヌキモ類の分布」（水草研究会会報 47号6-9, 1992）では，全てイトタヌキモであるという

佐賀植物友の会編「佐賀の自然と植物」（1987）161頁“佐賀の食虫植物”では，イトタヌキモを加えて10種をリストアップしている

長崎県：外山三郎「長崎県植物誌」（1980）

モウセンゴケ—烽火山，雲仙

コモウセンゴケ—西彼半島東側，東彼，北松

ミミカキグサー—各地（やや普）

イトタヌキモ—大村市三浦

タヌキモ—各地（希）

ホザキノミミカキグサー—諫早，福江島，二本楠（希）

ムラサキミミカキグサー—諫早，西彼七釜，大串，福江島雨通宿（希）

熊本県：熊本記念植物採集会編「熊本県植物誌」（1969）

モウセンゴケ—各地（やや普）

ミミカキグサー—各地（やや希）

ミカワタヌキモ—熊本市秋津（ごく希）

タヌキモ—各地（やや希）

ヒメタヌキモ—熊本市秋津，免田町（ごく希）

ホザキノミミカキグサー—小岱山，長洲町，小国町，阿蘇町千町無田，水俣市無田原，相良村川村（ごく希）

イトタヌキモ—熊本市秋津，清和村朝日，人吉市西瀬，免田町（ごく希）

ムラサキミミカキグサー—阿蘇町千田無田，端辺，水俣市無田原，人吉市人吉，藍田

大分県：大分県植物誌刊行会編「新版 大分県植物誌」（1989）

モウセンゴケ—23地点（やや普）

ムラサキミミカキグサー日田市伏木, 玖珠町内匠, 日出生台, 古後, 湯布院町小田の池,
別府市猪の瀬戸 (少)

ノタヌキモ—中津市御澄ヶ池, 宇佐市蛇堀池 (希)

ミミカキグサー10 地点 (少)

ホザキノミミカキグサー玖珠町内匠, 湯布院町小田の池, 九重町ウルガ水, 別府市猪の
瀬戸 (少)

ミカワタヌキモ—中津市御澄ヶ池 (希) (注) 絶? (瀬野, 私信 2000)

コタヌキモ—湯布院町小田の池 (希) (注) 分布の南限

タヌキモ—21 地点 (やや普)

宮崎県: 室屋瀧雄・南谷忠志「宮城県の維管束植物目録」(宮崎県高等学校教育研究会理科・
生物部会編「宮崎県の生物」55 頁, 1992)

シロバナナガバノイシモチソウ—中・西部 (希)

モウセンゴケ

コモウセンゴケ—中部 (希)

ミミカキグサー北・中・西部 (注) タヌキモ科7種と示しているが, 6種のみ記録

ミカワタヌキモ—中部 (希)

ノタヌキモ—中部 (希)

ホザキノミミカキグサー—中・北部 (希)

イヌタヌキモ

ムラサキミミカキグサー—西・中・北部 (やや希)

南谷忠志「宮崎県総合博物館収蔵資料目録, 植物編」(1986)では, タヌキモを加えて10種
を記録

鹿児島県: 初島住彦「改訂 鹿児島県植物目録」(1986)

モウセンゴケ—霧島山, 大口 (西太良), 冠岳, 桜島, 大隅大川原, 垂水 (鹿大演習
林), 屋久島

コモウセンゴケ—谷山, 瀬々串, 生見, 万の瀬ダム, 屋久島, 種子島, 口永良部島, 黒
島, 中之島, 口之島, 横当島, 奄美諸島 (各島)

ムラサキミミカキグサー—霧島山, 宮之城, 隈之城, 屋久島

ノタヌキモ—北田布施, 種子島

ミミカキグサー—饒島, 県本土, 種子島, 屋久島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島

ミカワタヌキモ—川内, 伊作, 田布施, 種子島

ナガレイトタヌキモ—徳之島

ホザキノミミカキグサ—霧島山, 吉松, 大口, 隈之城, 馬毛島

タヌキモ—県本土各地, 甌島, 種子島, 奄美大島, 与論島

イヌタヌキモ—沖永良部島

沖縄県：島袋敬一「琉球列島維管束植物集覧, 改訂版」(1997)—鹿児島県の島部を含む

イシモチソウ—西表島(内離島) (注)台湾大学に1点の標本(1935年3月29日正宗厳敬採)があるのみで疑問, 既に絶

コモウセンゴケ—奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 沖縄諸島, 石垣島, 西表島, 与那国島 (注)奄美大島や沖縄産に白花品が多い。

タヌキモ—奄美大島, 与論島, 沖縄本島, 宮古島, 西表島

ミミカキグサ—奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 沖縄本島, 伊是名島, 石垣島, 西表島, 与那国島

ホザキノミミカキグサ—伊是名島

ミカワタヌキモ—徳之島, 沖縄本島, 西表島

イヌタヌキモ—沖永良部島, 沖縄本島, 久米島, 宮古島(?)

5. 謝辞

多くの文献を提供下されたり, 貴重な「植物誌」「植物目録」等をご寄贈下された各自治体や団体の関係者または個人の方々, 特に多大なご協力を頂いた上野雄規, 瀬野純一, 外山雅寛の諸氏に心から感謝申し上げます。なお, 採用した文献が不適切であったり, より新しい文献をご存知でしたらご教示下されたくお願い申し上げます。

6. 引用文献—県別の文献として本文中に引用したものは省く

石高和弘(2000) 短信 新潟県中頸三和村のフサタヌキモの新聞記事, 食虫植物研究会誌 51(1):31

上野雄規(1997) 東北におけるフサタヌキモの現状と保全, 植物地理・分類 45(2):53-64

上野雄規(2000) 山形県産フサタヌキモ標本, フロラ山形 56号4-5

植松茂・笈田一子・勝俣員伊・外山雅寛(2002) 北海道でチビヒメタヌキモを発見(第2報)～発見史・形態・生態, 食虫植物研究会誌 53(1):1-8

沖田貞敏(2000) 秋田県植物分布資料(3), 2. オオタヌキモ, 秋田自然史研究 41号5

-6

- 片桐義昭 (1976) 新潟県の食虫植物 (2), 食虫植物研究会誌 75号 1-20; 追補, 同誌 80号 1-7 (1977)
- 小宮定志 (1975) 日本産タヌキモ科植物の解説, 食虫植物研究会誌 71号 8-18
- 小宮定志 (1988) 日本を代表する食虫植物 コウシンソウ, 日本の生物 2 (6): 49-56
- 小宮定志 (1989) ムジナモとその最後の自生地宝蔵寺沼, 日本歯科大学紀要 18号 97-143
- 小宮定志 (1994 a) 総説 ヒメミミカキグサ, 日本歯科大学紀要 23号 105-123
- 小宮定志 (1994 b) 総説 ナガバノイシモチソウ, 日本歯科大学紀要 23号 125-156
- 小宮定志 (1995) 絶滅が危惧される日本産食虫植物, 日本歯科大学紀要 24号 139-173
- 小宮定志・上野雄規・佐々木喜久 (1999) 秋田県にフサタヌキモ出現, 食虫植物研究会誌 50 (4): 110-111
- Komiya S. & C.Shibata (1978) Distribution of the Droseraceae in Japan, Bull. Nippon Dental Univ., no.7, 169-205
- 小宮定志・柴田千晶 (1979) 日本産モウセンゴケ科植物の解説, 食虫植物研究会誌 87号 1-15
- Komiya S. & C.Shibata (1980) Distribution of the Lentibulariaceae in Japan, Bull. Nippon Dental Univ., no.9, 163-212
- 小宮定志・柴田千晶 (1999) 日本産ムシトリスマレ属, 日本歯科大学紀要 28号 117-146
- 小宮定志・柴田千晶 (2000 a) 総説 ミミカキグサとホザキノミミカキグサ, 日本歯科大学紀要 29号 133-160
- 小宮定志・柴田千晶 (2000 b) 総説 ノタヌキモとコタヌキモ, 日本歯科大学紀要 29号 161-181
- 小宮定志・柴田千晶 (2000 c) 日本産ムシトリスマレの分布-追加報告, 食虫植物研究会誌 51 (1): 22-24
- 小宮定志・外山雅寛・沖田貞敏・柴田千晶 (2001) 北日本に分布するオオタヌキモ, 植物研究雑誌 76 (2): 120-122
- 小宮定志・外山雅寛・柴田千晶・勝俣員伊 (1997) 北海道産の食虫植物, 日本歯科大学紀要 26号 153-188
- 瀬野純一 (1995) 西日本におけるコモウセンゴケの自生地について, 食虫植物研究会誌 46 (4): 89-92
- 瀬野純一 (2001 a) 短信 徳島県におけるコモウセンゴケの新産地, 食虫植物研究会誌 52 (4): 98-99

- 瀬野純一 (2001 b) 短信 石川県におけるトウカイコモウセンゴケの産地, 食虫植物研究会誌 52 (4) : 99
- 外山雅寛 (2001) 北海道でチビヒメタヌキモを発見 (第 1 報), 食虫植物研究会誌 52 (2) : 41-42
- 外山雅寛・勝俣員伊 (1999) 北海道よりホザキノミミカキグサ・コタヌキモの新産地報告, 食虫植物研究会誌 50 (1) : 32-33
- 堀富男 (1998) 福島県新産地植物と稀産植物の新産地 (38) コモウセンゴケ, フロラ福島 16 号 29-30
- 三木雅博 (1967) 香川県の食虫植物, 食虫植物研究会誌 41 号 13-16 ; 追記, 同誌 42 号 40-41
- 吉田めぐみ・小宮定志・中田政司 (1996) 富山県に確認されたトウカイコモウセンゴケ, 富山県中央植物園研究報告 1 号 53-56